碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

2年4月号（213号）
発行者　根岸岳萃
編集者　中村愛岳

2年4月現在会員数

逗子地区	157名
葉山地区	265名
大船地区	46名
（合計）	（468名）

有意義だった尺八入吹込のつどい

堀内支部・D組　三留　岑岳

木々の芽ふくらみはじめた三月四日(日)私達D組では「堀内・D組18周年尺八入・記念吟集吹込のつどい」と銘打ち、尺八伴奏に鈴木如風先生をお願いし、中村先生宅にて、楽しく有意義なつどいが行なわれました。

D組では10周年の折にも右のようなつどいが行なわれましたが、15周年の折は、中村先生宅の家の建替のため機を逸し、今年は18周年で未広がりということにかこつけて実施に至りました。第一の目的は記念吟集を残すこと、第二は現在会員25名は週三回に分かれてのお稽古なので、全員顔合せということでした。

開始前に尺八の如風先生から微に入り、細に入りの説明がありました。尺八入吟詠ははじめてという方も何人かいるので、中村先生も心配そうにそばにいて誘導してくれました。自分もはじめてなので、いざやってみるとむずかしく、あがってしまいましたが何とか終りホッとしました。他の皆さん達は上手で立派でした。これも日頃の先生の御指導の賜物と皆感謝しています。

終ってから懇親会に入りましたが、D組は会員構成が、男女半々ということも自慢できることの一つと思います。さゝやかな料理ながら、和気藹々で、カラオケあり、民謡あり、ダンスありで盛りあがり、なかでも〝北国の春〟の合唱に、如風先生が、すかさず尺八の伴奏をつけて下さり、最高に盛りあがりました。その他即興の民謡、歌にも尺八伴奏が入り、それはそれは楽しい会となりました。

今後も来る二十周年にむけて、先生始め皆さんがいつまでも健康で、末長くやっていきたいと思います。皆さんに代り、中村先生に厚く御礼申しあげます。

◎碩心会　皆伝会開催のお知らせ

日　時　平成2年4月22日(日)11時より
会　場　堀内会館（逗子駅より海岸廻り葉山行バス・元町下車）
会　費　二千円

◎碩心会　温習会のお知らせ

日　時　平成2年5月6日9時30分より
会　場　逗子図書館ホール3F

◇当日はネームプレート着用のこと
◇弁当（五百円）希望者は4月25日迄に代金を添えて企画部へ

奥伝合格（四月一日付）

286 根岸啓風
272 角田松風
262 石井美風
223 蒲庭風

276 松村松風 大坪功風
265 角田正風
224

282 武井桃風 大坪孝風
266
260 草柳利風

おめでとうございます

審査会風景

暖かい春日和に恵まれた三月十一日、逗子図書館ホールに於て、碩心会春季審査会が行われました。

碩心会支部別会員数一覧表

平成２年４月

逗子地区		葉山地区		大船地区	
逗子A	57	堀内	91	大船A	11
逗子B	10	一色A	42	大船B	12
桜山A	11	一色B	12	戸塚	7
沼間	13	星山	7	松和	16
銀詠	15	上原	21		
真澄	23	唐木山	7		
葉月	13	下山口	15		
若葉	10	吟甫	11		
		長柄	15		
		諏訪	15		
		上山口	6		
		滝の坂	15		
		風早	8		
8支部	157	13支部	265	4支部	46
合計	（25支部・468名）				

私は午前の部のお手伝いを終えて、午後からホールに於て行われた七段の審査を聞かせていただきました。審査名簿を手にしていたので、何気なくみると78才の方がいられました。堀内支部・F組の小西勝風さんでしたので、心待ちに聞かせていたゞいたところ、なんと、節調よし、声量あり、一つの間違いもなく、年令を感じさせぬ朗々とした吟にただただ感心、そして嬉しさに涙が出てしまいました。

そしてふとみると前の席にいられた担当の矢嶋悦岳先生が同じように目がしらをぬぐっていられました。そしてその前列にいられた同教室の斉藤さんも…。何と嬉しいことではありませんか。小西さんが席に戻ってこられると、皆でいっせいによかったねーと思わず声をかけました。

御本人の努力は勿論ですが、常日頃の悦岳先生の力の入れようは感心しています。当日も生徒さんの吟が始まると、ストップウォッチを押したり、ポケットから調子笛を出して音位をたしかめたり…。その熱心さが生徒に通ずるものとつくづく思いました。同教室の他の皆さん方の吟もお世辞ぬきでよかったと思いました。おめでとうございました。

詩吟とドラマに出てくる人々

ＮＨＫの大河ドラマ『翔ぶが如く』が始まり、詩吟を学ぶ我々に馴染み深い人名が出てくる。薩摩藩主島津斉彬は朝廷と幕府が一体となって政治を行い、外国に当たるという公武合体論者であった。この事をよく頭に入れておいて見ると、これから出てくるであろう人々と、その行動が理解出

各会員別会費表

年間会費

区分	正会員	一般会員	高令身障	年少者
総本部費		1,000		500
県本部費	2,400	2,400	1,200	240
碩心会費	1,500	1,500	1,500	1,500
合計金額	3,900	4,900	2,700	2,240

半期納入額	1,950	2,450	1,350	1,120

納期

前期分……４月末……（平成２年度は５月末）

後期分……９月末

来て興味ぶかいものになると思う。

大久保と西郷の関係、西郷と僧・月照との間柄、藩主斉彬の死が、責任感の強い西郷をして月照を誘い薩摩潟に入水した心境、ドラマでどんなふうに扱うか、今から関心をもつ一場面ではある。

西郷があの時月照と運命を共にしていたら歴史は相当変わったであろうとおもう。

大久保の生きかたも、変わったであろうし西南戦争もなかったかもしれないし、田原坂の戦いも詩もなく、吉次峠の詩も、城山の詩も生まれなかっただろう。

西郷等は死を決して、ちょうど鹿児島にきていた平野国臣主従と四人で錦江湾に舟を出した。月の明かるい夜で月明かりに桜島がくっきり浮かんでいた。突然西郷は月照を抱きかかえて海中に飛び込んだ。同乗していた平野や船頭が慌てて引き揚げたが、月照は遂に助からず西郷だけが生き返った。そして西郷は名を変えて奄美大島に流された……と言う。

月照の歌を一、二書いてみましょう。

。弓矢とる　身にはあらねど　一すじに
　立てし心の　末はかわらじ

。大君の　為には何かおしからん
　薩摩の瀬戸に　身は沈むとも

秋元寄稿

〝俺が死んだら…〟の歌詩に感有り

下山口支部　沼田隆岳

今年の碩心会初吟会も盛大に終りました。例により、例の如く、歌に踊りに楽しく過ごさせて戴きました。先生方のかくし芸中、根岸会長が亦々〝おれが死んだら…〟を歌われました。時にふれ、折にふれ、この歌が出るのは、忘れることの出来ない思い出があるのではないのかと推察致します。

実は私にもこの歌には深い思い出があります。昭和18年1月3日、私達は横須賀海軍工廠よりの出張の命を受けて、オンボロ商船に乗せられ、単船にて横須賀港を出港しました。目的地はトラック群島基地に滞泊中の特務艦明石（工作艦）乗船勤務の為であった。当時はまだ日本の勢力が強かったので単船でも行動が出来、なんとか入港することができました。

18年末期頃になると、敵潜水艦の待伏により、商船では入港不能で港内に釘付けの状態であった。当時艦内には敵空襲の算大なりとの張紙がしてあり、緊張の連続であった。

19年1月、一年間の勤務が終り退艦することになった。巡洋艦能代に乗船させてもらい、両脇には空母、駆逐艦等の隊形にてトラック島を出港。出港四時間後、魚雷発見、能代は回避に成功したが、船足ののろい空母前部に命中、船体が折れてしまった。まさに蜘蛛の子を散らすの言葉通り、各艦は隊形をといて散り散りばらばら。すぐ隊形を立て直し約一時間後帰途についた。

さて能代は、やられた空母を曳航しながらサイパンへ入港、19年2月であった。それから五カ月後、サイパンは米軍の手中に落ち、空母をサイパンに残し、能代にて無事横須賀港に帰港できた。

そしてもとの職場に復帰、約一カ月後召集令が出て、動員召集に切替えられ、家族との面会も終り、支給された衣服が夏物だったので南方行かと思われた。当時サイパンは激戦の最中だったので生還は期しがたいといわれていた。各自写真をとり、その裏に何でもよいから一言書いて原隊にのこせとのこと。そこで私は〝俺が死んだら三途の川でよ、鬼を集めて相撲とるよ〟の遺書を残してフィリッピンに出征したのである。Aさんも、Bさんも、Cさんも死んだ。各隊の中で、生還出来たのは約20%だった。

1番　万里の長城で小便すればよ
　　ゴビの沙漠に虹が立つよ
5番　俺が死んだら三途の川でよ
　　鬼を集めて相撲とるよ

練吟メモ

碩心会の詩

○今月は松井岳洋先生作の「碩心会の詩」について触れておきます。高段者とくに指導者はぜひ一読していただきたい。

○　碩心会詩　　松井　岳洋

東海魏魏八朶峯　千秋仰望碩人蹤
一吟能養浩然気　興起斯文応祖宗

この詩は正式の七言絶句です。七字四句で書かれている詩でも、規則どおりの構成でないものは七言絶句とは言いません。この詩はまず、起承転結が整っており、内容壮大でとても立派で、ありがたいことです。

○漢字には四声があり、平声（ひょうせい）と仄声（そくせい）（上声・去声・入声）があることはご存知のとおり。右の詩は、第一句の二字目「海」が仄字であるので仄起式と言い、偏格です。もし二字目が平字であると平起式と言い、正格となります。どちらでも詩の価値には関係ありません。

○七言絶句の仄起式の図式は次のとおり。

△●△○△●◎　○平字
△○△●△○◎記　●仄字
△○△●△○●号　△平仄いずれも可
△●△○△●◎　◎韻字

これを碩心会の詩に当てはめると、

東○海●魏○魏●八○朶●峯○
千○秋○仰●望●碩●人○蹤○
一●吟○能○養●浩●然○気●
興○起●斯○文○応●祖●宗○

○韻字の峯・蹤・宗は平声二冬韻。脚韻と称し漢詩には不可欠の条件である。韻字の見方は、漢詩作法の参考書等に四声韻譜として巻末などに載っているので誰でも引くことができる。語呂は同じようでも、韻譜に載っていない字は使うことができないことになっています。第三句末は、わざと韻を踏まないで韻律に変化を与えることになっているものです。

○七言絶句には、まだ細かい規則があります。右のほかに、四字目が「平」の場合、その前後を「仄」にしないという決めがあります。つまり●○●という形で「四字目の孤（こ）平は避ける」のです。またどの句とも下の三字が同じ「平」あるいは「仄」にならないよう決められています。すなわち、●●●と続いたり、○○○と続いたりすることは「下三連」といって、禁じられています。また、同じ字は二度使わないという決まりがあり「同字相犯（おか）す」といって禁止されています。

○「碩心会の詩」は、そうした諸条件をすべて満たし、全く完璧に作られています。

女の一生

女の一生は、二十代は美しく、三十代は強く、四十代は賢く、五十代は豊かに、六十代は健やかに、七十代は和やかに、八十代は愛らしく、そしていぶし銀のように再び美しく。

（入　会）

560 金子春子　逗子市逗子七ー三ー五〇
（逗子A）（電）〇四六八ー七三ー〇六五四
561 佐原和子　逗子市沼間四ー一二五五ー五
（逗子A）（電）〇四六八ー七三ー一六二五
562 二戸部武　逗子市久木七ー一四六六ー八
（逗子A）（電）〇四六八ー七二ー〇七七二
563 草柳スミ　逗子市桜山七ー一〇ー一四
（堀内・E）（電）〇四六八ー七三ー一九六四
564 永津エキ　葉山町上山口三〇五四
（滝の坂）（電）〇四六八ー七八ー七一五七
565 池田喜一郎　葉山町堀内一〇〇九
（風　早）（電）〇四六八ー七五ー二五五二
566 姥（うば）寿々子　横浜市栄区飯島町一八七九ー九七
（大船A）（電）〇四六ー八九一ー四五五六

（退　会）

30 大倉婦岳（堀内A）
170 古田島越風（銀　詠）
242 伊藤鶴風（死）（一色A）
522 小篠柳子（銀　詠）
64 石渡陽岳（逗子A）
219 伊藤信山（大船A）
388 今村京山（若　葉）
532 門戸チョ（沼　間）